

# 地政学と日本の大戦略

## トランプ政権下での「力の真空」に備えよ

危機的な国際情勢の背後にある

現代史の大局的な流れのつかみ方

2017年5月25日、投資育成ビルで行われた経営トップセミナー「地政学と日本の大戦略」。「地」は地理、「政」は政治と軍事。外交政策のエキスパートが、地政学的分析手法の観点から中東やロシア、中国、北朝鮮、さらにはトランプ政権の動向を解きほぐし、国際政治の見えざるパワーをレポートする。

世界中に広がりつつある  
不健全で醜い「ダークサイド」

私は今から40年ほど前、カーター大統領が当選した1976年、アメリカに留学していました。その後、外務省に入り、ずっとアメリカの政治を見してきましたが、トランプ政権は最悪だと思います。裁判所と喧嘩し、議会と対立し、FBIと喧嘩している。こんな政権は初めてです。

政治の世界には2つのバージョンがあります。まず選挙に勝つための人材がバージョン1・0、統治するための人材が2・0です。当選したらキャンペンモードの1・0から統治モードの2・0に移行しなければいけないのに、今のホワイトハウスの主流は1・0で、トランプ大統領は1・5です。彼が3年後の大統領選挙に勝つには、去年投票してくれた人たちに同じキャンペンをやればよい。だから、わけ

の分からないことを言い続ける。かといって、全く統治しないわけにはいかないで、1・0から2・0の間を行ったり来たりしている。トランプ大統領が2・0になることはないでしょう。トランプ政権を誕生させたのは今のアメリカに不満を持つ白人でした。アメリカは圧倒的に白人が多い国でしたが、2050年にはこれまでの少数派が多数派になり、アメリカは白人の国ではなくなると予測されています。そうなったとき、何が起ころうでしょうか。既得権益を持っている白人がはじかれ、中産階級からはじかれていく。そういう動きが始まっています。決定打が、白人労働者階級の資産を大きく減らしたリーマンショックでした。今のアメリカは、白人系よりアジア系の方が収入が高い。なんだ、白人の国じゃなかったのか。ワシントンはけしからん。エスタブリッシュメントはけしからん。この怒りがトランプさんを当選させま

キヤノングローバル戦略研究所  
外交・安全保障研究主幹  
立命館大学客員教授  
外交政策研究所代表

宮家邦彦さん

みやけ くにひこ

1978年東京大学法学部卒業後、外務省入省。外務大臣秘書官、在米国大使館一等書記官、中近東第1・第2課長、日米安全保障条約課長、在中国・在イラク大使館公使、中東アフリカ局参事官などを経て、2005年外務省を退職。同年、株式会社外交政策研究所代表に就任。06年立命館大学客員教授。06～07年総理公邸連絡調整官。09年から現職。主な著書に『日本の敵 よみがえる民族主義に備えよ』（文春新書、2015年）などがある。

誌上公開！ 経営トップセミナー

SEMINARS FOR TOP MANAGEMENT

した。

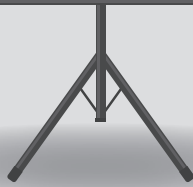
これを私は「ダークサイド」と呼んでいます。不健全で醜いナショナリズムとポピュリズムが合体し、さらには破壊願望が加わったもの、それがダークサイドで、アメリカだけの話ではありません。イギリスのEU離脱はイギリスのダークサイドですよ。既得権益を持った中産階級が、いわゆる負け組になったからEU離脱派が勝ったわけです。

ある意味、冷戦時代は非常に安定していました。相手は共産陣営で、予測が可能だったし、ある程度の富の再配分ができ、資本主義で対応することができました。ところが、ソ連が崩壊して冷戦が終わるとグローバルゼーションが始まり、貧富の差が広がりました。お金持ちがどんどん豊かになる一方で、

### 東アジア地政学に関する大疑問

- Q 1 いつ米国は北朝鮮を先制攻撃するのか？
- A 1 当面ないが、時間との闘い、「真実の時」が来る
- Q 2 いつ中国は北朝鮮を見捨てるのか？
- A 2 当面ないが、いずれ「緩衝地帯」は「お荷物」となる
- Q 3 いつ文在寅大統領は平壤を訪問するのか？
- A 3 いずれ試みるが、従来の「宥和政策」には限界あり
- Q 4 いつ中国は尖閣列島に上陸するのか？
- A 4 当面ないが、「力の真空」発生をじっと待ち続ける
- Q 5 いつロシアは北方領土を返還するのか？
- A 5 当面ないが、あるとすれば「外交革命」が必要な時
- Q 6 いつトランプ大統領は辞任するのか？
- A 6 「統治」モードへのバージョンアップがなければ、いずれ

(出典) 当日の宮家さんの講演スライド資料から作成



「問題なのは、世界中にダークサイドがあることではなく、それをどのようにコントロールできるかだ」

負け組と呼ばれる人たちが出てきて、ダークサイドを生むことになりました。極右政党の台頭に見られるように、ヨーロッパ中でその現象が起きています。

### 「力の真空」が生まれるとき戦争が起こる

欧米だけではありません。アジアではフィリピンでドゥテルテ大統領が誕生しました。貧富の格差が広がっている中国にも、そして日本にもダークサイドはあります。それが表面化しないのはコントロールできているからです。アメリカの民主党はおろか共和党やイギリスのキャメロン前首相もコントロ

ールできなかった。問題なのは世界中にダークサイドがあることではなく、「どのようにコントロールするか」です。

昔は経済も政治もローカリズムというか、ナショナリズムでした。グローバルゼーションが進んでいる今は、人間にたとえるなら、「体はグローバルゼーションでも頭はナショナリズム」です。この後、どうするかをわれわれは問われています。まだ方向性は分かりませんが、多くのものが変化することは確かです。変化が起こると「力の真空」ができる可能性があります。

力の真空とは、ある場所から政治的なパワーが失われるということです。有力議員が亡くなると、その議員の選挙区から大勢が立候補しますね。同じようなことが国際政治でも起こります。ある場所からパワーがなくなれば、その周りの勢力が真空を埋めに来ます。大体、戦争が起きるんです。

具体例を挙げましょう。1970年、それまで中東の湾岸地域を支配していたイギリスは、スエズ運河から軍を撤退しました。軍を維持できなくなったからです。すると、インド洋とペルシヤ湾が真空になりました。それを埋めたのがイランです。次いで1978年にそのイランで革命が起こり、イランが真空になります。その結果、どうなったか。1979年、アフガニスタンでクーデターが起こり、ソ連軍が介入してきます。1980年にはイラクの

サダム・フセインがイランに侵攻し、イラン・イラク戦争が起こりました。

1988年にアフガン戦争が終わり、ソ連軍が撤退すると、真空になったこの地域にテロリストが住み着きました。アルカイダとタリバンです。そして、後に彼らが9・11のテロを引き起こし、アメリカがアフガニスタン、さらにはイラクに入っていきます。ところが、2011年にオバマ政権がイラクから米軍を撤退させました。今度はイラクに巨大な真空ができ、これをイスラム国（IS）が埋めたためにイラクは崩壊しました。同じようなことがシリアにも起きました。

中東方面の変化について考えるとき、もう1つお話ししたいのはオスマン帝国の崩壊です。広大な領土を持っていたオスマン帝国の力が衰退し、バルカ





# 「北朝鮮は1940年代のビジネスモデルを続けている 超ワンマンオーナーのブラック企業だと思えばわかる」

ン半島を失ってユーゴスラビアができませんでした。そのユーゴスラビアも後に崩壊し、いくつもの国に分裂しました。帝国というのは、皇帝が少数民族を優遇し、少数民族を使って多数の民族を支配するシステムです。帝国が崩壊するとどうなるか。少数民族が駆逐される。これがバルカン半島で起きたことです。

## ロシアと中国の動き その背景に自国の脆弱性

今の中東の変化が時代の変動だけで

プーチンは米欧の大統領選に介入しようとした？

ICBMで米国本土を狙おうとしているのは北朝鮮だけ

南シナ海への中国進出、反米・反NATOのドゥテルテ

米国が北朝鮮を潰せば米韓と国境を接することとなる中国にとって悪夢に

EU離脱、トランプ政権、極右政党の台頭を見るダークサイド

(出典) 宮家さんの講演と資料をもとに編集部作成

なく、オスマン帝国のような長期的な衰退と分裂の過程が続くのだとしたら、次に壊れるのはヨルダン、その次はサウジアラビアですよ。エネルギーの源がおかしくなっていくということです。そういう意味で、今の中東情勢は北朝鮮より危険かもしれません。

日本にとって大きな問題である北朝鮮、尖閣諸島、北方四島についても力の真空が関係してきます。

ロシアにとって最大の弱点は、なかなか丘陵地帯だということです。自然の要塞がないため敵が攻めてきたときに脆い。だから攻めてくる前に動くということ。緩衝地帯を取りに行き、領土がどんどん広がっていった。周りの国にとっては帝国主義ですが、ロシアにとっては安全保障なんです。

緩衝地帯がなくなり、力の真空が生まれることは安全保障上の脅威になります。クリミア半島を取って支持率を8割、9割に上げたプーチン大統領が、北方四島は日本に返すなんて言えるわけがない。ただ、未来永劫返さないとは思いません。中国がロシアの戦略的脅威だと考えたとき、それが唯一のチャンスです。今後10年、20年のスタンスであれば、ロシアの外交政策変更は起こり得ると思います。

一方、その中国のアキレス腱の1つは、富の大部分が集中している太平洋側です。富を支えるものは「人、金、技術、エネルギー資源」ですが、中国

にあるのは人だけで、あとは外から海上ルートで入ってきます。海の方が陸より運送コストが安いからです。しかし、海上には日米安保によるシーレーンが立ちほだかっています。それが中国の脆弱性です。

南シナ海の問題が転機を迎えたのは、反米政権だったフィリピンが米軍を撤退させた1991年のことで、翌年、中国は領海法を設定し、南シナ海は全部中国のものだと主張しました。フィリピンは2015年に、常駐はしないけれども米軍が帰ってくるという協定を結びましたが、この地域はまだ半分空白です。どう充滿するのか、ドゥテルテ大統領は何をするか分からない人なので、この先どうなるのかは読めません。

## 核兵器を放棄する気がない 北朝鮮に宥和政策は無意味

尖閣諸島については我慢比べが続くでしょう。中国は人民解放軍の船を派遣するような馬鹿なことはしません。尖閣にやってくるのは沿岸警備隊（海監）の公船です。だから、日本は海上保安庁が守らなくてはならない。自衛隊を先に使ったら戦争になります。先にナイフを抜いた方が負け。これが今のゲームの基本的なルールです。何年続かなか分かりませんが、とにかく海上保安庁を強くして中国の目的を阻止できるようにしなければいけません。

中国のもう1つのアキレス腱は旧満州で、この地域と接している北朝鮮は重要な緩衝国家です。もし、北朝鮮が崩壊したら、民主的な市場経済の統一半島国家と国境を接することになります。それは中国にとって悪夢の始まりで、安全保障上の大問題です。中国は北朝鮮

## 受講されて いかがでしたか？

### 生々しく興味深い 国際政治の動き

株式会社働楽ホールディングス  
西島富久社長



高度にグローバル化が進化した今、大きなパワーバランスの変化は中小企業経営においても、大きなインパクトをもたらしますので、国際政治には常に関心を寄せています。混沌とした未来を予見するのは、政治同様に経営でもなかなか難しいことですが、今の緊迫した国際政治の状態を生々しくお伺いすることができ、パワーバランスが崩れると、必ず新しい均衡状態を求める動きが起こるとの指摘は大変興味深いものでした。

### 頭の整理ができ 視野が広がった

サンコー防災株式会社  
鈴木文三社長



国際情勢が不穏になる中で、矢継ぎ早に押し寄せてくるニュースのみでは見えにくい分析をテンポよく示していただき、力の真空というお話を伺ってよりリアルな世界地図を得られたとともに、頭の整理ができました。私どもは、防災というリスクを扱うローカルなビジネスではありますが、視野はグローバルに持たなければなりません。直接ビジネスにつながるということはないかもしれませんが、環境の変化に合わせて、リスクに適正に備えていくという意味でも視点が広がりました。

経営に役立つ知見を  
ご提供します

今後も多彩な講師をお招きする  
予定ですので、企業力強化に向け  
てぜひこの場をご活用ください。

ビジネスサポート部長  
大村智之



構成＝松村喜八郎  
撮影＝石橋素幸  
取材協力＝時事通信社

に存在してほしくない。だから、最後の最後まで北朝鮮を見捨てないわけです。北朝鮮は、1940年代のビジネスモデルを続けている超ワンマンオーナーのブラック企業だと思えばいい(場内笑)。中国のように改革開放をせずに古いビジネスモデルを続けるためには核兵器が要るんですよ。核の力を背景にアメリカと対等の交渉を行い、平和条約を締結したいと考えています。核兵器を放棄する気がないのだから宥和政策は無意味です。譲歩しない以上、必ずどこかで破綻します。それはいつなのか。トランプ大統領は北朝鮮に先制攻撃すると見る向きもありますが、そんなことをすればソウルが火の海になり、韓国経済が大打撃を受けますからできるはずがなく、アメリカは斬首作戦などできません。しかし、北朝鮮がICBM(大陸間弾道ミサイル)でアメリカ本土を恫喝したとき、もはや東アジアの問題ではなくなります。北朝鮮はICBMを早くつくればつくるほど終わりが近づく。時間との戦いになっているんです。あと10年で結論が出るかもしれません。その前に核開発をやめさせないと大変なことになる。それが今起きていることです。

## セミナー・研修の今後のご案内

### 経営トップセミナー

2017年 9月	4日(月)	15:30~17:00	いつからでも脳は鍛えられる ~脳科学を活かした仕事術~ 講師:茂木健一郎氏 脳科学者	<b>【投資先限定】無料</b> 一般企業は申込できません
-------------	-------	-------------	---	----------------------------------

### 投資育成セミナー

日程			セミナー名	受講料	
				投資先企業	一般企業
2017年 7月	24日(月)	15:00~17:00	種類株式の活用、従業員持株会の設立~解散(見直し)と税務ポイント 講師:海野大氏 アタックス税理士法人 税理士 中野威人 東京中小企業投資育成(株) 部長代理	無料	無料
	25日(火)	14:30~17:00	TKC×投資育成 海外子会社管理セミナー (1) 海外子会社の不正・誤謬の予防・発見のポイント 講師:林稔氏(公認会計士) 株式会社KPMG FAS マネージングディレクター (2) 海外子会社の財務管理の成功事例とポイント 講師:温井徳子氏(税理士) TKC全国会 海外展開支援研究会 OBMonitor普及部会	無料	無料
	26日(水)	15:00~17:00	実践 業務の可視化~働き方改革の鍵は組織三者の協働~ 講師:石橋博史氏 一般社団法人 可視経営協会理事 株式会社システム科学 代表取締役社長	無料	無料
	27日(木)	15:00~17:00	仕事に活かすアンガーマネジメント 講師:松村聖也氏 (一社)日本アンガーマネジメント協会 アンガーマネジメントファシリテーター	無料	無料
	28日(金)	15:00~17:00	〔立川開催〕ビジネスで役立つ、ウソ(人間心理)の見抜き方 講師:森透匡氏 (株)Clearwoods 代表取締役社長 究極のコミュニケーションコンサルタント	無料	無料
2017年 8月	28日(月)	15:00~17:00	売上を20倍にしたモチベーションアップ術と仕組み作りの秘技伝授 講師:吉野真由美氏 プレゼン話し方研究所(株) 代表取締役社長 「営業大学」学長、営業コンサルタント、プロ講演者、営業研修講師 ほか	無料	無料
	29日(火)	15:00~17:00	〔高崎開催〕リーダーは夢を語りなさい 講師:矢部輝夫氏 合同会社おもてなし創造カンパニー 代表	無料	無料
	29日(火)	15:00~17:00	中小企業のブランド戦略 講師:高橋克典氏 TERRANOS代表、株式会社カッシーナ・イクスリー元代表取締役社長	無料	無料
	30日(水)	15:00~17:00	交渉に役立つ! ノンバーバルコミュニケーションの理解 講師:山本真智子氏 株式会社ディー・クエスト 公認不正検査士 ポストン大学犯罪司法修士	無料	無料

通常の投資育成セミナーは、事前にお申し込みいただければ、どなたでも受講いただけます。  
セミナーの詳細については、弊社ホームページ <http://www.sbic.co.jp/> でご確認ください。

### 研修

日程			研修名	受講料	
				投資先企業	一般企業
2017年 8月	3日(木)	10:00~18:30	若手社員早期戦力化研修(2日間)【第2組】	38,340円	49,680円
2017年 9月	6日(水)	10:00~18:30	管理職研修 上級コース(3日間)【第2組】	71,820円	92,880円
	11日(月)	10:00~18:30	新入社員フォローアップ研修(2日間)【第1組】	満員御礼 好評につき受付終了	
	15日(金)	10:00~17:00	ビジネスマナー研修【第1組】	9,720円	12,960円
	25日(月)	10:00~18:30	リーダー研修(3日間)【第2組】	71,820円	92,880円
2017年 10月	2日(月)	10:00~17:00	クレーム対応研修(対面・電話対応)【第1組】	9,720円	12,960円
	5日(木)	10:00~18:30	管理職研修 基礎コース(3日間)【第3組】	71,820円	92,880円
	13日(金)	10:00~18:00	〔新企画〕営業ブレークスルー研修(2日間)【第2組】	48,060円	62,640円
	16日(月)	10:00~18:30	中堅社員能力開発研修(3日間)【第2組】	71,820円	92,880円

各種研修のお問い合わせは、東京中小企業投資育成(株) ビジネスサポート部 TEL. 03-3499-0755 FAX. 03-3499-0819